

第6回中山町公共施設再配置計画策定審議会

日時 令和8年3月10日（火）

午前10時00分～

場所 中山町中央公民館 第1会議室

議 事 概 要

- (1) 第5回中山町公共施設再配置計画策定審議会議事概要について
- (2) 中山町公共施設再配置計画 基本構想（素案）に対する意見等について

資料1

【鎌田委員】 区長連絡協議会総会終了後に住民説明会があったが、私も出席していた。「意見等無し」では誤解を招くかもしれない。単純に全部了解しましたという意味ではなく、機会がなかったということだと思う。そこだけは、資料として修正したほうがいいのではないかと思う。

【事務局】 区長連絡協議会終了後に開催したため、お昼過ぎまでこちらの説明が長引いてしまい、質疑の時間が取れなかった。表現を修正させていただく。

【秋葉委員】 37 ページに石子沢川の流域対策がまとめてられており、雨水貯留浸透施設の整備と貯留機能保全区域の検討がある。パブリックコメント結果の回答⑤の中には雨水貯留浸透施設しか書かれていないが、貯留機能保全区域は記載しなくて良いのか。

【鈴木委員】 私から説明させていただくと、その2つは全く別のもの。イメージとしては、建物の下に水槽みたいなものを作るのが雨水貯留浸透施設。例えば田んぼに雨が降ったときに昔から雨が溜まりやすいところに盛土や宅地開発などをしてしまうと、そこに溜まっていた水が宅地に行ってしまう可能性がある。そのような区域において盛土等の貯留を阻害するような行為を行う場合に届出を必要とし、浸水の拡大抑制のため、貯留機能を保全する区域を貯留機能保全区域という。よって、回答⑤では、雨水貯留浸透施設のための記載で間違いない。

【事務局】 中山町では地面への雨水の浸透しやすさについて、調査をしたことがある。浸透率が非常に悪いので、雨水貯留浸透施設とあるが、基本的には浸透よりも貯留が効果的なのかなと考えている。公共施設の駐車場の

地下に水槽のような雨水を貯めるところをつくるようなイメージ。

【鎌田委員】回答⑤の中で、「新たに整備する公共施設に雨水貯留浸透施設を併設させる」と書いてあるので、公共施設は川の近くだと限定されると思う。しかし、この質問は、公共施設をどこにつくるか聞いているものではないので、ここまで記載する必要はないのではないか。

【事務局】石子沢川流域水害対策計画の中で求められているのは、10万m³分の雨水貯留浸透施設であり、さらに、公共施設再配置に伴う雨水貯留浸透施設の整備という位置づけになっているため、基本的に再配置事業と雨水貯留浸透施設の整備はセットと考えている。

- (3) 中山町立小学校・中学校の将来を展望した学校のあり方に関する提言について 資料 2

質疑等なし

- (4) 中山町公共施設再配置計画 基本構想の答申（案）について 資料 3

【鎌田委員】私の前回の発言、16ページの「(2)安全安心な住みよいまちを支える役割を示す」の中の雨水貯留浸透施設の整備の可否という表現が良くないということで、「適否」に修正していただいたようだが、どちらかというと「否」という部分が気になっていた。当該施設をつくるということであれば、雨水貯留浸透施設の「適地配置」や「適正配置」などのような表現にした方が良いのではないかと思う。どこにするかという意味合いでの適否と捉えているが、人によっては否＝やらないというイメージになるのではないか。

次に、同じ項目の中に地震、(活断層)という言葉があるが、(活断層)は不要ではないかと思う。活断層があるからどうということではなく、活断層が活動したことによる地震被害が問題である。山形県のホームページで示されている山形盆地断層帯マップによると、活断層付近は震度6強、長崎全域は震度6強となっており、活断層近くと同じ。それどころか、長崎地区に震度7の地域もあるので、(活断層)という部分は無くても良いのではないか。

最後に、資料の中に地震に関する資料がないので、追加してほしい。

【事務局】1点目、16ページの(2)の(活断層)は削除する。

2点目、雨水貯留浸透施設の整備の「適否」は「適地」と修正する。

3点目、4ページに災害リスク評価として、地震も含めて記載しているが、ハザードマップまでは掲載していない。配置計画の段階で災害リスク評価をすることになっているので、その際の資料として添付したいと考えている。

【渡部委員】今の指摘を受けて、重要な観点だと思った。地震や地質の専門ではないが、地震の揺れやすさは施設の検討をするうえで大事だと思う。活断層とはまた別に地面が動くという意味での危険性もあると思うので、両方書いてあった方が良いのではないかなと思う。

【鎌田委員】中山町には山形盆地断層帯があるが、長井市にある長井盆地西縁断層帯が動いたときも同じように震度6強が想定されるところがある。断層帯の直上は当然危険だと思うが、離れた場所の液状化も危険だと思うので、活断層を記載するのであれば、同列で液状化も記載すべきではないか。活断層と記載しなくても、「地震」と一括りの記載で良いのではないかと思っている。

【渡部委員】記載については事務局にお任せしたいと思うが、活断層が新たに発見されることがあると思うので、発見されたときに活断層を避けていくのは、当然地震を避けるということと同義。揺れることと、揺れたあとの地面がどうなるかということは違うのかもしれないと思う。

【事務局】地震と活断層とは並列にはならないと思われる。地震によって津波が起こるが、地震（津波）ではなく、地震と津波はそれぞれ違う災害になっている。活断層というのは地震の原因になっている存在なので、それによって起きる被害という話になれば、「地震」という表現に包含できるのではないか。候補地の強度というのか、脆弱性というのか、そういった表現を選ばせていただき、その点については再度文書等で照会させていただきたい。

【渡部委員】基本はあらゆる危険が含まれていた方がいいという意図であれば、今分かっている危険性が全部言葉の中に含まれていれば、問題ないと思う。

【事務局】表現については、答申前に修正案を皆様に確認させていただく。

(5) その他